

一緒にしましょう コミュニティづくりを!

中野ふくし倶楽部通信

「中野ふくし倶楽部」は、主に中野区に暮らす人々の福祉の向上と子どもたちの豊かな育ちに貢献することを目的としています。

NPO 法人 中野ふくし倶楽部
発行責任者 田中芳樹
中野区中央 4-53-7 YHNビル 101
TEL 03-3384-5616
<http://www.nfcaozora.org/>

貧困の連鎖

チャイルドライン中野公開講座 —子ども施策への提言—

冒頭、「隠れた貧困」の中にあえぐ高校生の生の声がスライドで紹介されました。お金の問題だけではありません。育ち盛りの高校生たちの人間関係、生活の質、精神的な状態が危機に置かれていることを痛感します。昔も貧乏はありました。しかし今の貧困は単なる貧乏とは違う…「貧困=貧乏+孤立」だと湯浅さんは言います。

「弟などの面倒見なければならぬので高校進学を諦めた」など、あまりにも「早すぎる大人」。他面、人間としての豊かな成長の機会を与えられないままの「遅すぎる大人」。

これは経済の問題でもあります。「子どもの貧困が 43 兆円の損失を生み出す」という試算もあるそうです。このままでは社会が分裂してしまうのではないかと、そんな危機感を感じました。

お金がない、人間関係が築けない、精神的な貧困…これらを表す湯浅さんの言葉…「溜め」がない。小さいころから自らの「コップに溜める」ことで人間は成長し、自立していけるのです。

この貧困が見えないことも大問題です。ある小学校の校長先生、退職してから立てたある支援企画に、想定 の 6 倍の人が申し込んだ。その校長先生は「見えていない」ことを実感したそうです。

では、私たちに何ができるか。いま、子ども食堂が盛んです(全国で 400 くらい)。子ども食堂の「本当の目的」は、他人と交わること。そして人生の選択肢が広がること。

社会活動家・法政大学教授

湯浅誠 氏



初めて「みんなで鍋をつつく」体験をした高校生がいました。「みんなで鍋をつつく場面をテレビで見ても、仮想だと思っていた。それがリアル体験できた。いままで生きてきて一度もこんな経験がなかった。」その子にとっては一生忘れられない体験になったでしょう。

まず地域の実態調査をしてみよう。「地域子どもの未来応援交付金(ネットワーク事業)」は、まだ全国で 60 自治体しか活用していないそうです。ぜひ、行政、議員などへの働きかけをと、湯浅さんは呼びかけました。

会場からは活発な質問と意見表明がありました。

- ◇ テレビの中に年越し派遣村の湯浅さんがいた。退職したら何かしようと思っていた。いまチャイルドラインをやっている。
- ◇ 議会でこの交付金の件を質問しています。回答はNOでしたが。(中野の小杉区議)
- ◇ 就学援助を 3 月から支給せよと運動している。うなだれず顔をあげてがんばろう。

元気をもらった講演会になりました。湯浅さんありがとうございました。

講演のあと、参加者の皆さんから寄せられたアンケートの中から、「一人の大人としてどんなことができると思いますか」という質問に対して寄せられた声の一部をご紹介します。

- いま子ども食堂を始めたいと考えており、本日は医師3名が参加しました。ど真ん中の内容であり、来場して良かったと心から思っております。本日のお話を持ち帰り、ボランティア希望者の人たちの理念を上手くまとめ、明るく楽しい活動にしていきたいです。
- 子ども食堂を始めました(月2回)。親も一緒に来てもらっています。親も一緒に見守ってあげたい。
- まわりの人とつるんで(共謀して)ジタバタしたい。
- 今やっています。中学校の教育相談室に勤めて、不登校生徒のお相手をしています。
- 旗をかかげたい
- 政治的運動としてアングー・ジュマン
- 現在やっていることに自信を持ちました。
- まず忘れないことだと思います。
- 立場を利用して動きます。



チャイルドライン中野の活動

着信数 うち話げできた

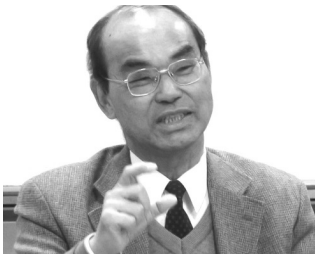
2月 212本 38本

3月 162本 37本

3.11への思い、進級への不安など、時に泣きながらの電話に寄り添っています。

中野ふくし倶楽部 連続講座

アベノミクスの煙霧をはらえば



相沢 幸悦 氏

埼玉学園大学教授

連続講座で経済問題を正面から取り上げたのは初めてのことでした。

アメリカの大統領選挙、フランスなどでの極右の台頭、グローバル化から保護主義へなど、世界の動きの中で「すでに世界史はかなり変わったのではないかと相沢教授。そんな中、アベノミクスはどこへ向かって国民を誘導しているのか。

「異次元緩和」については「予想が外れました」と率直な言も交えて、国債の大規模投入、マイナス金利、マスコミ操作、オリンピックの利用など、アベノミクスの煙霧を詳しく解明してくれました。

でも安倍内閣は経済政策を「煙霧」に使っているだけ。本当の目的は「自分の思い通りに『憲法改正』を成し遂げることです」とズバリの指摘でした。

そんなことにならないように、頑張りましょう。

子どもの居場所 友・ゆう・YOU

塾には行ってないけれど、都立高校に合格したい
そんな願いをサポートします

連絡先: 080-3919-0489 (大畑)

友・ゆう・You で 1 年間一緒に学んだ W ちゃんが都立高校の合格を知らせてくれた時は「おめでとう」「有難う」と。来日 3 年目、都立単願で見事に単位制高校生。「将来は通訳になって日本との懸け橋になる」と希望を語ります。新中 3 生の 3 人は、先輩にならってきっと頑張る目標に向かっていきましょう。

新人紹介

あおぞら常勤ケアマネジャー 田岡 大輔さん



あおぞら居宅に久しぶりに、常勤のケアマネジャーが登場。ケアマネとしては新人ですが、デイサービスの管理者を長く経験し、現在、先輩ケアマネに習い、ひとり立ちに向けて修行中です。どうぞよろしく!!

お元気ですか?

理事長 大畑 きぬ代

満開の桜に思うこと。

ヘルパーさんと、「利用者さんは花見に行けると嬉しいでしょうね」と話すことがあります。「花見だっ
て?」「介護保険では無理」とは知っていますが、そんな人間らしい季節を感じる時間があると生きる意欲につながるだろうと思います。一日 5 分、週 30 分のボランティアで季節の「笑顔」をもらえたら。

3 月末日、92 歳の母たちと一緒に温泉に行き昔話して花が咲き、楽しい時間を過ごしました。別れ際、叔母の「たびたび沖縄に行くのなら、実家に帰ってあげてよ!」はグサリと効きました。「ボランティアではない親孝行」もしないと…。

4 月 2 日、桜が二分咲きの平和の森公園に地域の人たちと繰り出しました。草地広場ではたくさんの方が、親子サッカーに、高齢者の凧揚げに、ジョギングにと大賑わい。そんな「いい景色」に感動し、個々人が思い思いの使い方ができる現在の平和の森公園の在り方に胸がキュンとしました。「300メートルトラックや、バーベキュー場を所狭しと作るよりは、今のままだいい」と思う。

今度は「花見」に区長さんを招待してみようかしら。

中野ふくし倶楽部日誌

2月24日	第9回理事会
3月1日	チャイルドライン公開講座 「貧困の連鎖」(湯浅誠氏)
3月13日	連続講座 「アベノミクスの煙霧をはらえば」 (相沢幸悦氏)
3月28日	第10回理事会

街中スケッチ

田中芳樹

冬の日の朝、男の子が自分の影をじっと見つめていた。それを見ていた女の子、この子もまた自分の影を見つめ始めた。そしていきなり「ピース」! 笑ってしまった。もう影はずっと短い季節になりましたが。

